

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●インフルエンザが引き続き流行しています

感染症発生動向調査で、平成29年第1週(1月2日～1月8日)の熊本市の定点医療機関あたりの報告数が、5.92人(定点数25ヶ所、患者報告数148人)となり、少しずつ増加しています。今後とも感染予防に努めましょう。

◆予防法は？

- ・流行期には人混みを避け、外出後は手洗い、うがいなどの一般的な予防方法をしっかり行いましょう。
- ・インフルエンザワクチン(予防接種)は、重症化や合併症の発生の予防が期待できます。

●流行性耳下腺炎が増えています

平成29年第1週の熊本市の定点医療機関あたりの報告数が、1.25人(定点数16ヶ所、患者報告数25人)となり、先週よりも増加しています。流行性耳下腺炎とはムンプスウイルスによる感染症で、小児や学童期に多い病気です。「おたふくかぜ」や「ムンプス」とも呼ばれます。

◆どんな病気？

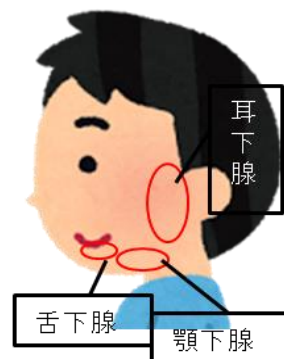
- ・症状……唾液腺(耳下腺、顎下腺、舌下腺)の腫れ・痛み、発熱などが1～2週間続きます。
- ・潜伏期間…2～3週間。発症数日前から感染力があります。
- ・感染経路…患者のくしゃみなどのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染、ドアノブや手すりなどを介する接触感染です。感染しても症状の出ない場合(不顕性感染)も多いと言われています。
- ・流行期……毎年、地域的な流行がみられ、3～4年周期で増減を繰り返しています。

◆かかったらどうすればいいの？

- ・特別な治療法はありませんので、対症療法が中心になります。
- ・自然に治ることが多いですが、無菌性髄膜炎を合併することがあります。また、思春期以降の男性の約20%で睾丸炎の合併がみられ、精子形成障害を起こすことがあります。

◆予防法は？

- ・手洗い、うがいが基本です。症状のある人との密接な接触は避けましょう。
- ・ワクチン(予防接種)を打つことにより効果的な予防ができます。副反応として、接種後2週間前後に軽い耳下腺の腫れや微熱が出ることがあります。



期 間		平成28年 第52週		平成29年 第1週	
		12/26～1/1		1/2～1/8	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		96	3.84	148	5.92
RSウイルス感染症		14	0.88	6	0.38
咽頭結膜熱(プール熱)		10	0.63	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		34	2.13	29	1.81
感染性胃腸炎		148	9.25	112	7.00
水痘(みずぼうそう)		16	1.00	20	1.25
手足口病		11	0.69	8	0.50
伝染性紅斑(りんご病)		2	0.13	1	0.06
突発性発しん		7	0.44	12	0.75
百日咳		1	0.06	0	0.00
ヘルパンギーナ		1	0.06	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		15	0.94	25	1.56
急性出血性結膜炎		0	0.00	1	0.20
流行性角結膜炎(はやり目)		9	1.80	11	2.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		7	1.40	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00